



# メバチ

## 中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍): 周年(未成魚・成魚)  
はえ縄(生鮮): 夏～秋(成魚)

## 生態

刺身として最も一般的に利用されています。まき網で漁獲される小型個体は缶詰などの加工原料となっています。

### ●分布・回遊

熱帯域から温帯域にかけて広く分布しています。若齢で小型のメバチは、同じ大きさのカツオなどと群れを作ることがあり、主に表層に分布します。成長すると単独の群れとなり、より水深の深い層にも分布するようになります。

### ●産卵期・産卵場

水温24℃以上の水域でほぼ周年行われていますが、主な産卵期は、赤道の北側では4～5月、南側では2～3月です。多回産卵を行っており、産卵期にはほぼ毎日産卵し、産卵は夜間に行われていることが報告されています。

### ●成長・成熟

成長は1歳で尾叉長49cm、2歳で78cm、3歳で99cm、4歳で113cm、5歳で126cmに達します。寿命は10～15歳と考えられています。

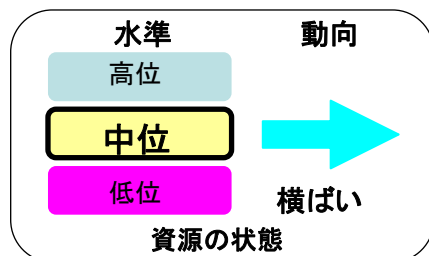
生物学的最小型は90～100cm、14～20kg(満2歳の終わりから3歳)で、雌は92cmで50%、雄は135cmで50%が成熟することが報告されています。

尾叉長(cm)	体重(kg)	尾叉長(cm)	体重(kg)
40	1.4	120	39.1
60	4.8	140	62.3
80	11.5	160	93.2
100	22.5	180	133.1

尾叉長と体重の関係

## 漁業・資源動向

### 【資源】



- 産卵資源量、性比、年齢別成熟率、一回当たりの産卵量、産卵回数等の情報を考慮した産卵可能指数は1970年代から減少傾向にあります。また、最近年の加入量は過去平均より大きいとみられています。
- 2012～2015年の平均産卵資源量は限界管理基準値を上回っており、平均漁獲量は限界管理基準値を下回っていると推定されました。
- これらのことから2018年の資源評価では、資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲努力が過剰でない可能性が高いと報告されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 [http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01\\_18S\\_BET-WCPO.pdf](http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_18S_BET-WCPO.pdf)

詳細 [http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01\\_18\\_BET-WCPO.pdf](http://kokushi.fra.go.jp/R01/R01_18_BET-WCPO.pdf)

### 【漁業】

- 2004年以降、太平洋全体では年間13.0～19.3万トン、日本では年間1.6～4.0万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、0.4～1.4万トンで推移しています(図下)。
- 静岡県沿岸では、曳縄や沿岸竿釣り船によって、未成魚がキハダに混ざって漁獲されます。

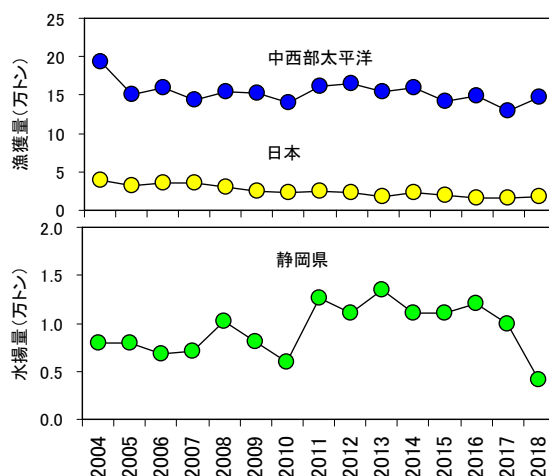


図 中西部太平洋と日本のメバチ漁獲量の推移(上)と静岡県のメバチ水揚量の推移(下)

担当者の一言: 最も一般的な刺身用マグロ(赤身)です。地域によって、ダルマとも呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817